

## 人間味あふれる政治家

栖原 亮

大平さんと私とは一橋の同窓であります。しかも大平さんは、私より二年後輩に当ります。学窓を巣立つて以来、先生は官政界、私は製紙一筋と、その歩む道こそ異なるものの何時頃からも思い出せぬほど、長いお付き合いを重ねてまいりました。特に大平さんが各大臣を歴任され一身に重責を担われるようになられてから、誰いごとなく昭和九年卒の同窓同輩十人ばかりが集まって、激職の続く大平さんに一服の憩いと一時の慰めの時間をと、生真い話抜きという「清友会」なる集いを定期的に、新橋松山に持たれ、それに後年私も参加いたしました。

また、大平さんのご親戚の一人である神崎製紙の遠藤社長、あるいは大平さんの郷土の先輩でありかつ後援者でもあった神崎製紙加藤相談役は、いずれも戦前の旧王子製紙以来の私の畏友、大先輩でありますので、大平さんを囲む神崎の会には私も常に同席し、大平さんの警咳に接し親交を深めておりました。この二つの会は大平さんにとっても肩の張らない気楽なレクリエーション的色彩もあり、いつも喜んで出席されかつ寛いだ気持ちで談論風発の果てに、例の細い目をさらに細めて阿々大笑する姿は、今でも眼前に彷彿たるものがあります。

大平さんは、新聞、テレビの報道によると「純牛」と呼ばれ、一般的には口の重い、遅足の政治家という印象が定着しているようですが、私どもから見ますと、大平さんの私的会合での発言は極めて歯切れも良く、物事に對する判断も明快流れるが如くであり、並々ならぬ明晰な頭脳と飾ることのないざつくばらんな天真爛漫そのものという感じの方でありました。しかし、大平さんは政治の恐ろしさというものを誰よりもよく知っておられた

と思います。それは大平さん自身の「政治家は謙虚に自省しながら、脂汗をかいて説得し、信頼と合意を求めるべきだ」という信条からもうかがわれ、それ故にこそ慎重に言葉を選び、自己の哲学に裏付けられた蘊蓄を傾けてやまぬ大平さんの奉仕の精神が、重厚な表現となつてあらわれたものと思われます。

また、私がつねづね大平さんを敬服してやまぬ一つに、あの多忙さの中でも失われなかつた旺盛な読書欲です。大平さんの言動の中には実に意味深い哲学が誠に平易な言葉で語られるということです。これは生半可な智識でできる技ではありません。だいたい私ども年齢ともなると、意欲があつても本の厚さでごく自然に肉体的な読書拒否が発動されるものです。その点、大平さんは終身読書をやめられなかつたことは、その気力もさることながら、その体力においても類い稀れであつたといえます。

この資質に加え大平さんの奉仕の精神が、人間味あふれる政治家として大成された原動力であつたかと思われます。大平さんは、「権力に頼るものは横着」といわれ、「枯れるバラにも水を」ともいわれました。それ故にこそ池田内閣をはじめ、数ある内閣のバックボーンとなられ、日中国交修復を果たし、エネルギー問題の克服を図られる等、幾多の輝かしい業績をあげられ、そしてこれからもあげられるはずでありました。私は大平さんの人並みすぐれた健康を思い、入院された後もその回復を確信しておりました。にもかかわらず私は突然、大平さんの訃報を聞き耳を疑いました。類い稀れなる健康が、むしろ仇になりました。

大平さんのような逸材を、この内外とも困難な時期に失つたことは、正に国家の損失であります。しかしながら大平さんの高邁にして謙虚な奉仕の精神は、必ずや女婿の森田衆議院議員はじめ、後に続く若い方々に引き継がれ、永く後世の龜鑑として彩られることを確信いたし、追悼の辞とさせていただきます。

(本州製紙社長)